

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600062		
法人名	医療法人社団 栄康会		
事業所名	グループホーム菊陽スマイル～ユニット(かえで)		
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1		
自己評価作成日	平成29年8月21日	評価結果市町村報告日	平成29年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市北区四方寄町426-4		
訪問調査日	平成29年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は医療法人である医療面においては協力体制が整っている。又楽しみである食事の食材は法人の農園で作られた減農薬の新鮮な野菜、米、大豆などを提供しています。ホームの菜園でも入居者様と一緒に野菜苗を植えたり、収穫したり一緒に出来る事を支援、また入居者様が個々の力量に合わせた役割を日常の生活の中で発揮でき自分らしく穏やかに過ごして頂けるように体調管理、状態把握に努め支援しています。職員はご利用者様の尊厳を保ち、プライバシーに配慮し、お互いチームワークを図り統一したケアで安全で安心して過ごして頂けるよう笑顔ある暮らしを支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が経営する事業所は職員の介護経験が豊富な職員が多く、安定・安心した生活が営まれている。法人の農園で作られた季節毎の様々な野菜は数日おきに届き、毎日の食事・おやつにと地産地消の実践が活かされている。入居者の毎日の生活では、家族から聞いた情報等により好きであったことに触れる機会を提供したりと、職員の工夫が見られる。また、開放されたユニット間の廊下を散歩する入居者の姿や、入居者同士歓談する姿があったりと、思い思いにそれぞれのペースで過ごす日常生活が見られた。職員には「利用者本位」の姿勢が徹底しており、更にケアの質を上げるための法人・事業所としての取り組みを窺うことができた。運営推進会議にも職員は交替で参加しており、運営に共に参加する姿がうかがえた。近年入居者の活動意欲が低下している事への課題もあるようだが、これからも入居者の「日常生活」を大切に、地域に根付いた事業所であることに期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の意見を尊重し、穏やかに過ぎて頂けるよう統一したケアを行い支援している。基本理念を掲げ入居者様が中心となる生活が送れるように意識しながら支援している。	設立時より掲げる4項目の理念は、職員同士確認や振り返りを行なえる様、廊下と事務所に掲示している。	職員間では理念の共有、実践が行われている様ですが、地域、入居者、家族と事業所を支える方々にも啓発し、共に理念を共有する取り組みに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にもホームで行われる慰問に出席して頂いている。その際、入居者様と話をされたし交流を深めている。	運営推進会議に地域の方に参加頂き情報交換をしたり、近隣のお付き合いより事業所の認知は深まってきた。地域のボランティア受け入れ等、来訪によるお付き合いも多い。	近隣は住宅地で、散歩時の挨拶や子どもの遊ぶ声を感じたりと日常生活でのお付き合いは見られる様です。地域行事の参加等は地域資源からホームが離れており、難しい点もあるでしょうが、継続した支援に期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学希望がある際やボランティア受け入れの際に認知症の方の理解や支援方法等、丁寧に分かりやすく説明等行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を行い、町役場、地域包括センター、社協、区長、民生委員、ご家族様に参加頂き、状況報告や取り組みを報告し委員の方よりアドバイスを頂き、サービスの向上に生かしている。	2ヶ月に1度の運営推進会議は、様々な立場からの参加が見られ、入居者家族、入居者、職員も参加し、活発な意見交換がある。地域の情報収集だけでなく、行政と地域、入居者家族を結ぶ大きな役割を持っているようである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に日頃感じている事、疑問点などその時に意見し助言を頂き連携を図っている。それ以外にも質問、相談、報告などあればその都度連携を取っている。。	運営推進会議には必ず出席があり、事業所の状況は良く理解頂いている。日頃から相談・報告等連絡も密にしており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング、カンファレンス等で身体拘束について禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入居者様がストレスを溜めないように近隣を散歩したり気分転換に努めている。	全体ミーティングで議題とし理解を深めている。日頃の業務の中でも入居者の状況を観察し、気分転換を促す等、言葉での拘束にも注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者の権利擁護の研修を受け、虐待防止等、権利、人権について学び、職員へ勉強会などで周知徹底を図り日頃のケアを振り返り虐待防止に努めている。職員がストレスを溜めないように相談できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を行い制度について学び知識を深めている。以前は制度を利用していた利用者がおられたが今はおられない繰り返し活用できる様に支援体制を整えたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはご利用者、ご家族にホームを見学していただき雰囲気や体験していただきながら十分な説明を行い不安、疑問等ないか尋ね納得されたうえで契約していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に職員が対応し状況報告書と共に意見、要望についても気軽に話せる雰囲気作りに配慮している。また意見箱の設置や第三者評価、苦情相談窓口のポスターの掲示も行なっている。	面会時だけでなく運営推進会議にも参加を依頼し、また秋祭り等の事業所行事を機会に家族との懇親を図り、コミュニケーション作りにも力を入れている。頂いた意見は検討し、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との会話を大事にして話しやすい雰囲気作りを心がけている。毎月の全体ミーティングで意見要望を聞く機会を設けている。	日頃から職員は管理者や他職員と話し合い検討する体制が出来ている。ケアについてだけでなく、職員も交替で運営推進会議に参加することで事業所全体のことに関わる機会もある。毎月のミーティング等で出た意見も含め、互いの意見・提案について検討している。	職員や管理者の移動等が近々に有り、新しい体制を踏み出しています。職員の考えや提案でサービスの質の向上に期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望の要望を聞きながら勤務表の作成を行なっている。勤務状況を把握、相談や面接する時間を設けている。残業や資格取得者には手当てを付ける等労働条件の整備をする事でやりがいのある職場になるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望する研修やスキルアップの研修をサポートしている。またグループホーム連絡会研修への職員参加を呼びかけ、研修等を通じてレベルの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと定期的に交流しており、同業者とお互いの情報交換を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い生活状況やそれぞれの心境、不安や悩みを聞き入れ把握し初期の段階でご利用者との関わる時間をゆとりと取り、不安の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談時にニーズ、要望を聞き出すようにし入居前にホームの見学をして頂きサービス内容の説明を行い不安軽減に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、ご本人とご家族の状況や必要としている事を確認し必要に応じた良い、サービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の関わりの中で一人ひとりの能力を見極め、その人の生活リズムを大事にし、人生の先輩として意識し様々な生活の知恵など聞き出し臨機応変に対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の支援もあり成り立っている事に感謝すると共に面会の際には状況報告を行い支援方法を説明している。秋祭りや行事参加の呼びかけを行いご利用者とご家族が共に楽しみ、喜び合い家族の絆を感じていただけるように取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の今までの繋がりを継続できる様に情報を収集しサポート、外出支援やご家族や知人の面会、ご家族との外出、外泊など自由にして頂き、関係継続に努めている。	入居者は以前からの地域住民であり、散歩中に近隣の方々から声を掛けて頂くこともよくある。また入居者同士知り合いという場合もあり、地域での生活そのものが入居後も営まれている様子が窺える。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者それぞれの特技や役割を把握しテーブルの座席や日中過ごす場所など利用者同士の関わりが出来るように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院等に入院されてもお見舞いに行ったり、契約が終了してもご家族の相談に応じたり近況をお伺いするなど支援している。経過によっては再利用にむけた相談など対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者とのコミュニケーションを図り、気持ちシートを活用し、日々変わりや会話の中から思いや意向の把握に努めている。入浴などその時の状況に合わせて本人の意向を尊重するケアを行っている。	職員は入居者の生活状態によりゆっくりと生活リズムを合わせ、意向に合った過ごし方が出来る様支援している。無理に聞き出すこと等はせず、じっくりと寄り添い耳を傾けることで意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、担当の相談員や介護支援専門員からの情報提供書や訪問の際にご家族やご本人から聞き取り、会話の中から情報の収集に努めてアセスメント、フェイスシートを作成し記録に残し職員へ周知をおこなっていく事で馴染みで暮らしやすい生活に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方、心身の状態を記録に残し、スタッフひとり一人が把握できる様に努め、その方の能力に応じた支援を行い安心して暮らせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月各担当でモニタリングを行いご家族へ報告し意見を頂いている。体調の変化や生活の変化がある場合にはカンファレンスを行い、介護計画の見直し作成を行っている。	入居者3名に対し職員2人の担当制で、変化の気付き等を家族に伝え意見も得ている。職員は担当記入によるケアプランへの経過記録、評価、気付きを共有し、計画の作成にも活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や気づきをもれなく記入するように徹底している、ケースの記録や申し送りや情報を共有しながら必要時カンファレンスを行い検討し介護計画の見直しを行いケアの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の要望に応じて柔軟に対応するようにしている。ユニット併設を活かしお互い行き来し、気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方々に慰問に来ていただき、ふれあい貴重な時間を楽しく過ごせるように支援している。近隣住民の方も参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望やこれまでの医師との関係を尊重している。かかりつけ医へ受診介助や往診をして頂く事もある。体調不良時や日頃の状況を報告し正しい情報提供に努めている。	入居前のかかりつけ医の受診を支援している。昨年より往診して頂ける協力医も増え、協力体制が更に整ってきた。通院介助は家族の協力もあり、職員と連携を取りながら適切な医療の支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で体調の変化や気づきを看護師に伝え介護、看護の注意点などアドバイス、健康管理に注意している。日中夜間でもオンコールにて急変時対応できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には主治医や看護師と連携を取り情報提供、フェイスシートで詳しく書いて渡している。また入院後は治療状況など状態把握に努め、早めの受け入れが出来るように退院に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には段階に応じてご家族と話し合い、医療依存度が高くなられた場合ホーム出てくる事を説明し話し合い方針を共有している。ご本人、ご家族との関係を大事にしながらか支援できるように心がけている。	入居時に事業所の方針について説明を行い同意を得ている。重度化した場合は家族と入居者の意向を第一に考えできるだけの支援を行うが、現状では治療が必要となった場合、医療機関への入院となるケースが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会において急変時の対応、応急手当、初期対応の訓練は行っているが、日常的に各勤務帯の事例をイメージトレーニングするなど常に事故や急変を意識するようにして訓練する必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害、非難訓練マニュアルを作成し、年2回の消防訓練を実地しており、内1回は夜間を想定し消防署立会いの下訓練をしている。近隣の住民にも参加の呼びかけを行い、地域連携に取り組んでいる。	昼・夜それぞれを想定した年2回の避難訓練は入居者も参加し行っている、地域役員の方々へも常々協力を依頼しているが、事業所では危険を出さないことが第一と考え、訓練同様、火災等の防止に力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格を尊重し、これまでの人生の歩みやご家族の思いを考え失礼の無い言葉かけやサービスを心がけている。個人情報の取り扱いについては利用目的を定め、契約時に説明を行い同意を得ている。またホーム内にも掲示している。	職員は入居者への言葉遣いや対応に気を配った対応をしている。特に入浴時やトイレ使用時の対応には統一したケアが出来る様日頃から職員に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせ声掛けを行い自己決定できる場面作りに努めている。意思表示が困難な方へはご家族にも協力を得ながら自己表現へ繋げるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者の一人ひとりの意思を尊重し生活のペースを乱す事なく個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装などご自身で選択できる人には本人に任せ介助が必要な人には、その人らしい身だしなみの支援を行っている。月1回訪問理容を利用されたり、馴染みの美容室へ出かけたり支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	農園でとれた旬の野菜を分けていただいたり、豆の筋取りや芋の皮むきなどの下ごしらえや調理、味見や片付けなどご利用者の能力に応じて楽しみながらできるように支援している。	法入で管理する農園から季節の野菜がふんだんに届き献立に取り入れられ、ユニット毎に行われる調理はメニューも異なり、きざみ食等入居者に合わせ提供される。食事中は職員との会話も弾み、共に時間を楽しんでいる	過度な介助がなく入居者自身で食事を楽しむ姿が見えましたが、車イス利用者の方にとっては食卓椅子への移動も環境の変化に繋がると思います。出来る範囲で生活の幅が狭くならない工夫に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作成。その方の嚥下能力に合わせた食事を提供し、誤嚥防止に努めている。またその方の習慣なども配慮している。食事量、水分量なども記録し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後その方の能力に応じ、歯ブラシ、舌ブラシ、口腔スポンジを使用し口腔ケアの支援をおこない清潔保持に努めている。義歯も毎日消毒、管理を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツや尿取りパットを使用しておられる方も多いが出来るだけトイレで排泄できるように排泄ボタンを把握しトイレへの誘導を行っている。自尊心を傷つけないような声掛けに配慮し不安の解消を行っている。	入居者の状況によりおむつやパッドの利用もあるが、出来るだけトイレでの排泄に向け支援している。トイレ利用時にはプライバシーにも配慮した対応を徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬を使わないように食事や運動、水分補給を勧め便秘予防に努めている。食後のトイレ誘導などケア面からの予防や対応も行っている。状況に応じては内服薬でのコントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意向に沿って午前中や午後からの入浴本人の性格も考慮しご本人のペースに合わせ一人対応しているが、移乗動作など安全の為、2人対応をすることも有る。またその季節ごとのお風呂を楽しむようにしている	入居者の希望に合わせて個々に対応しており、無理な声掛けはしていない。移乗等以外は1対1で介助を行い、また手を出し過ぎない様、ケアの在り方も考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々その時の状況を観察し休息を取っていただくように支援している。夜間の安眠については日中の活動を多く取り入れるなどの工夫を行い、またゆっくり休めるように寝具調整と室温管理し気持ち良く眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を閲覧できるようにしており、薬の作用、副作用、注意点など共有している。服薬は3度の確認を行い誤薬が無いよう注意している。服薬後状態把握に努め、内服薬の調整に状況報告書を提出するなど、また必要に応じて職員が同行し医師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人やご家族から情報、生活歴をもとに嗜好や趣味などを把握し、その方の能力に応じて洗濯物たたみやお膳拭きなど役割を持っていただいている。季節ごとの行事や誕生会を行い楽しみになるような工夫を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物外出や気分転換の為に近隣の散歩など、ご本人の希望に応え外出支援を行っている。また年間行事で花見やドライブなど戸外に出かけられるように支援している。	天気の良い日は散歩に出掛けたり花の水やり等、外気を感じる機会を作っている。計画行事だけでなく、都合がつけば少人数でドライブすることもある。また家族の協力で外出も見られる。日常的に両ユニット間の通路を歩いたり、外出できない日も活動的な入居者の様子も見られる。	散歩の際には隣接工場の敷地を通ったりと、地域に溶け込んだお付き合いの様子も見られます。近年入居者の意欲が減ってきている様ですが、生活の中で外気を感じる工夫を是非継続されることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながらご本人管理できる方は所持していただき出来ない方は職員管理のもと、希望の品があれば職員と一緒に出かけ買物するなど支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望に応じて電話したり、取りついたり、手紙があれば読んであげたり返事を代筆したり、ご家族との絆を大切に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースのリビングや廊下はゆったりとしたスペースで台所での調理の匂いや片付けの際の音など生活感を感じ、リビングの窓からは季節の花が眺められゆっくり過ごすことができる。ホールには湿度計をおいている。	共用スペースは明るくゆったりとしており、日中から入居者の歓談する姿や職員が寄り添う姿が見られる。玄関には家族から頂いた花や野花も飾られ、季節を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人おひとりに居場所があり、同じ環境で落ち着いて安心して過ごされている。またご利用者同士で過ごせる環境づくりにも努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはできるだけ馴染みのある今まで使用されていた家具を置いたり、写真を飾ったり、ご本人やご家族と相談しながら過ごしやすい安全な居室作りに取り組んでいる。	ベッド・マットレスと空調機器を備え付けた居室は、写真や絵を飾ったり、使い慣れた筆筒を持ち込んだり、好みの色を揃えたりと個性が見られる。ベッドで過ごす時間が多い入居者には、リビングに飾った後の季節の掲示物を利用し、居室での時間を楽しむ工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置してバリアフリーとなっている。危険物の排除に努め、また個々の身体状況に配慮し居室にはその方が分かりやすく混乱が少なくなるような工夫を行い支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600062	
法人名	医療法人社団 栄康会	
事業所名	グループホーム菊陽スマイル～ユニット(さくら)	
所在地	熊本県菊池郡菊陽町原水1019-1	
自己評価作成日	平成29年月日	評価結果市町村報告日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市北区四方寄町426-4
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

等事業所は医療法人である。医療面においては協力病院もあり、協力体制も整っている。又楽しみである食事の食材は農園で作られた減農薬の新鮮な野菜、米、大豆などを提供しています。ホームの菜園でも入居者様と一緒に野菜苗を植えたり、収穫したり一緒に出来る事を支援、また入居者様が個々の力量に合わせた役割を日常の生活の中で発揮でき自分らしく穏やかに過ごして頂けるように体調管理、状態把握に努め支援しています。職員はご利用者様の尊厳を保ち、プライバシーに配慮し、お互いチームワークを図り統一したケアで安全で安心して過ごして頂けるよう笑顔ある暮らしを支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様の意見を尊重し、穏やかに過ごして頂けるよう統一したケアを行い支援している。基本理念を掲げ入居者様が中心となる生活が送れるように意識しながら支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にもホームで行われる慰問に出席して頂いている。その際、入居者様と話をされたし交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム見学希望がある際やボランティア受け入れの際に認知症の方の理解や支援方法等、丁寧に分かりやすく説明等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を行い、町役場、地域包括センター、社協、区長、民生委員、ご家族様に参加頂き、状況報告や取り組みを報告し委員の方よりアドバイスを頂き、サービスの向上に生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時に状況報告、ケアサービスの取り組みを伝えながらまた、役場の事業計画にも参加、それ以外にも質問・相談・報告を行い、その都度連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティング等で身体拘束について禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するように周知又スタッフがストレスを溜め込まないように月1回のミーティングで発言できる場を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者の権利擁護の研修を受け、虐待防止等、権利人権等について学び職員へ勉強会などで周知徹底を図り、日頃のケアを振り返り虐待防止に努めている。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内で勉強会を行い、制度について学び知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様へ十分な説明を行い、理解と同意をされ、サインと捺印を頂いている。内容の変更や介護報酬改定時には、書面で説明同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し苦情や不満など題し易いようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングや申し送り、日常業務内において、スタッフの意見、要望を聞くように努めており反映の為の努力をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握、評価を行い、各自スタッフと相談、面談も受けながら残業した時は、手当で付ける等、労働条件の整備をする事で、やりがいある職場になるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成こそが質の高いケアにつながっていく大切な要素である事と考えている。両ユニットで周知を行い職員参加を勧め、勉強会で報告、職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームで連携を取り、困難事例や職員間の問題がある場合は検討し話し合っている。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、ご本人・ご家族様と面談を行い、それぞれの心境、不安や悩みを聞き入れ初期に少しでも信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様から多くの情報を頂く為、困っている事、不安な事、ご意向など傾聴し入居前に見学して頂きサービス内容の説明を行い不安軽減に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階で現状での状況を見極めケアプランを作成し、モニタリングを行い、本人に必要なサービス、支援を見つけ出し対応に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の関わりの中で一緒にテレビを見たり、ソファーに座り昔の話を聞いたり本人様の体調に合わせて軽作業と一緒に取り組むことで支えあう関係が築かれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会等で近況報告し、安心して頂くと共に、ご家族様との絆を大切に、ご家族だけの時間も提供する。ご家族の協力のもと一体となって入居者を支えている事を理解していただけるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の今までの繋がりが継続して出来るように、情報を収集し関係継続に努めている。親戚、姉妹、子供様など日時を合わせていただけるよう支援したり、ご家族とのふれあいを大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士でお話ができる様にリビングでの椅子を準備したり、スタッフと他ユニットへ散歩に行ったり、車椅子を押して上げたりなど様子を見ながら、手を差ししのべられる方もあります。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院に入院されても、お見舞いに行ったり、ご家族様の意向を確認して相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けをし日々の会話や関わりの中からニーズを把握するように努め訴えを記録に残すようにしている。申し送りやミーティングで話し合い日々の過ごし方など、その時の状況に合わせて、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、担当の相談員や介護支援専門員からの情報提供書や、入居時の本人様、ご家族様から情報でアセスメント、フェイスシート作成し、記録に残し職員へ周知を行っていくことで馴染みで暮らしやすい生活に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で連携を取り、情報提供し合い、その方の出来る事、出来ない事を把握し、出来る事の支援を行い、安心して暮らせるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画表の目標の評価・モニタリングは毎月、各担当で行って、ご家族様への報告・意見を頂き、必要時にはカンファレンスを行い、プランの見直しを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、健康チェック、食事量、排泄、睡眠、ケアの気づきなど記録に残し、申し送り、情報の共有につなげてよりよいケアへ繋げる工夫プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な支援を行っている。医療機関への通院介助、ユニット併設を活かし、お互いに行き来し、気分転換を図るよう努めている。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア活動をされている。方々に慰問に来て頂き、踊りや歌を披露して頂き、一緒に踊ったり、歌ったり、手遊びしたり、楽しまれております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を大切に、かかりつけ医への受診介助を行い、又、往診して頂くこともあります。体調不良時にはNsより、状態報告を行い、医療機関との連携もスムーズに出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々健康チェックを行い、健康管理に注意している。変化・気づきがある場合、Nsへ伝え、日中・夜間でもオンコールにて、急変時対応できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師・看護師と連携を取り、情報提供、フェースシートで、緊急連絡先、内服薬、病歴、入院までの経歴など詳しく書いて、渡している。入院後、お見舞いに行っ様子を見ています。治療が終了した場合には、早めの受け入れ支援をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた看取り指針を作成しており、入居者の状態を見ながら、早い段階から、ご本人・ご家族様の意向を確認し、事業所のできる事を説明し、話し合っ方針を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体ミーティングにおいて、急変時の対応、応急手当、初期対応の訓練は行っている。連絡などについても、指導・周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導を受け、避難訓練地域の方々の支援も受けながら実施しています。日中・夜間の想定し、年2回の消火、通報、避難訓練を実施し、実際に、安全にすばやく対応できるように取り組んでいます。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者一人ひとりに対して、常にその意思と尊厳を大切に優しく、敬意のある対応に配慮している。個人情報の取り扱いについては、利用目的を定めて、同意書交わし、勉強会でスタッフへの周知も行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を尊重し、自らが決定や選択する事ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮しながら、入居者の希望を聞き、大切にしながら、生活のペースを乱す事なく、個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服薬等、ご自身で選択できる人には、本人に任せ、介助が必要な人には、その人らしい身だしなみを支援、洗面介助、髭剃りなど、声掛け、一部介助を行っております。理・美容室も、馴染みの利用をしている人もいます。(月1回訪問理容も利用している)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、調理の下ごしらえ、皮むき、味付け、味見など一緒に出来る事を支援しています。又、個別に好みや嚥下能力に合わせ、工夫して提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立表を作成し、個々の嚥下状態に応じた形態の食事提供・食事量・水分量の記録を行い、必要に応じて補給している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、利用者様の状態に応じて、歯ブラシ・舌ブラシ・口腔スポンジを使用しケアをしている。就寝時には、義歯を定期的に洗浄液にて消毒している。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から把握し、トイレの声掛けやオムツを確認したり、オムツ削減に努め排泄の自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表で把握、食物繊維の多い食品の提供、水分補給を行い、運動や腹部マッサージをもらい、予防に取り組み、便秘の人には、下剤の量で調節しながら服用してもらいコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴の声掛けをし、本人様の意向を聞き入浴支援している。本人様のペースに合わせて一人対応で行っていますが、安全の為二人介助で移動動作の介助を行う事もあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状態を良く観察し、体調不良や疲れがある時は速やかに居室に誘導し休んで頂いている。不眠時には温かい牛乳など提供したり、居室の温度・湿度調整、体位の工夫など支援し、定期巡回を行い、安心して眠れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診した時の薬の説明書を個人ファイルに入れ、閲覧できるようにしている。内服薬処方時に申し送り、病状の変化はスタッフ間で共有している。服薬は一人ひとり手渡し口に入れるなど、確実に服用したか、確認見守り支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人やご家族様から情報・生活歴をもとに嗜好や趣味などを把握し、その方の能力に応じて、洗濯物たたみやお膳拭きなど役割を持ってもらったり、サロン参加などの支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の体調に合わせた散歩などの支援を行っています。又、ご家族様の協力も頂き、定期的に外出したり、地域の人々の協力を得ながら、健康ウォークに参加した事もあります。		

グループホーム菊陽スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様やご家族とも話し合い、金銭の管理は職員が行っていますが、本人様が必要な物など自由に使えるようにしており、病院受診時の支払いなどスタッフと一緒に支払いするなどの支援も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、電話をしたり、電話を取り次いだり、ご家族との絆を大切にしています。お手紙が届けば、返事を書いたり支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、車椅子での移動もスムーズに出来るようになっていきます。台所での様子や準備に食器を洗う音などが聞こえ、生活感を感じられます。居室やトイレの場所がわからない方も誘導し、混乱しないように表示、似顔絵を描いて名前を入れたり工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが居場所を確保し、自由に過ごす事ができている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人様が馴染みのあるものを持ち込みレイアウトをしており、心地良く過ごす事ができるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレには手すりを設置しており、危険の排除を第一に安全確保をしています。残存能力を低下させない為にも、自立した生活ができるように支援している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 菊陽スマイル
作成日 平成 29年12月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事の際、車いす利用の方が、食卓椅子へ移動することで環境の変化につながるのではないか。	本人の状態にあわせ食事や日中は椅子やソファへ移動介助おこなう。	本人の状態に合わせて椅子やソファへ介助し、環境を変えて共に時間を楽しんでいただく。	6ヶ月
2	1	基本理念をホーム内へ掲げているが、入居者や家族と共有不足である。	ホームの理念とは別に入居者様が自分らしく生活が送れるような目標を検討する	両ユニットの皆さんが見える所へ目標を掲示する。	6ヶ月
3	52	ホーム内の換気ができていないのか不快な匂いのもとで居心地が悪くなっていないか。	館内の匂いを減らすことと職員の意識を高める。	掃除の際には窓を開け換気。ゴミだしや扱いで不快な匂いを出さないように努める。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。